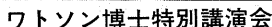


福岡大学医学部ニュース



医学部長 松岡雄治

か、講演終了後、ワトソン博士のサインを希望する学生や一緒に記念写真を撮る人などが殺到し、大変な混雑であった。その一人一人に対し、気安く希望に応じ、一緒に写真を撮ってくれた博士の人間的魅力の大きさに改めて感心する。コマであった。この講演会でわれわれが得た最も重要なものの一つが、ノーベル賞受賞者ひいてはノーベル賞そのものを身近に感じ得たことではないかと思う。わが福岡大学が、ワトソン博士の若い人への愛情と期待を裏切らないような立派な学問の府に成長することを願ってやまない。

教務委員 滿留昭久

進行中です。ひとつは来年度、平成五年度より土曜日の授業が廃止され、週五日制になります。この学生の週五日

もうひとつは文部省の大学設置基準の改正、大綱化の省令が平成三年六月に出されました。これに対応する力リキ

I 週五日制に伴うカリキュラムの改正

福岡大学では来年平成五年

四月より、土曜日の学生の授業を廢上し、週五日のウリキ

業を停止し、近五日のかり手
ユラムを採用することになり

ました。医学部でも教務委員

会、教授会の審議を経て、来

年度の新しいカリキュラムがまばまとなりました。現行カ

リキュラムの内容をあまりい

じらないでという原則に従っ

ていますが、それでも多少

の「フ」が「フ」でなく「フ」である。

大学

大学の

大学評価・白

ため、当該大学における教育

研究活動等の状況について自
ら点検及び評価を行うことと

努力しなければならない。二、

前項の点検及び評価を行うに

当たっては、同項の趣旨に即

し通せん項目を訂定するとともに、適当な体制を整えて行

うものとする。」に基づくも

のであります。

したうえで大学の自己点検
はこの条例による「努力義

「務」ではありませんが、文部省

からみれば、表面上まずは、

大学院・学部・学科の新增設、改組・改廃などに祭して

その姿勢を問うことになりま

しょうが、その究極は米国ニ

ユーイングランド地区の一基
レディテーション

こ、大学・学部での生存をかけた「サバイバル準認定」などにみられるように

た教育・専門分野別のランク

改正
留昭久

す。以下改正の主な点を簡単に述べてみます。

- 1 土曜日の授業を廃止し、週五日制にする。
- 2 現行のカリキュラムを出るだけ残すために
(1) 一時限の時間を一〇分から九十分に短縮する
(2) 昼休みを六十分から五十分に短縮する。
- (3) 現行の一日四時限から、一日五時限にする曜日が出てくる。
- (4) 午後からの授業開始時間を他学部のように一致させる。
- 3 M5については土曜日に
おこなわれていた臨床講義は廃止する。従って臨床講義の試験も廃止する。
BSLは現行の三十六週に加えて、救急救命センター、筑紫病院などを追加する。

自己点検に

已評価専門部会委員

作りに利用される可能性があります。このでいうユニークランド方式とは、各大学が自己点検 (self-study) を行い、報告書を出し、それをもとに実地視察団が現地調査をして意見書を書き、これに対して大学側が反論書を書き、判定委員会がその大学を基準認定するかどうかの最終判断を下すという形をとります。この過程で最も必要とされるのは「適正手続 (due process) の精神」であります。

たとえば喜多村和之著「大学評価とはなにか」(東信学堂)によると、現代の大学制

る。さらにBSLにおける臨床実習の実をあげるために、学年末に「BSL総合試験」をおこない、これをM6への進級判定の資料とする。

4 M6についてはM5でこなっていた臨床講義を現行の総括講義の中に包括する。

各科試験の期間を夏休み前後の四週間に短縮し、M6における学習の流れをよくする。そのために各科試験の問題の作成については、学生の極端な負担にならないように検討する。

以上が主な改正点です。

特にM5、M6については従来のカリキュラムと多少変わってきているので、学生諸君に説明する機会を作りたいと考えています。

Ⅱ 大学設置基準の大綱化に伴うカリキュラムの改正

平成三年に文部省は大学設置基準の一部を改正する省令を出しました。この中では設置基準の簡素化がおこなわれ

しつつ

金岡 毅

しつつ、授業をうけ、カレッジライフをおくる消費者としての学生であり、子供の学費や生活費を負担する家庭であり、国立大学の経費はいくらまでもなく、私学への補助金を二重に負担している納税者であり、その税金の配分をきめる政府であり、大学卒業者を採用する雇用者であり、大学の研究開発や人材養成を期待している産業界であります。このようなひとびとの暗黙の理解や支持がなければ、大学は存在、発展できないからであります。したがって、学生による講義評価がまず第一に求められることとなりま

れ、各大学がカリキュラムを自由に設計できるようになっています。カリキュラムに係する主な点を挙げる、と、

① 一般教育科目と専門教育科目などの授業科目区分が廃止された。従って一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目、さらに一般教育科目の中の人文、社会、自然の三分野の区分がなくなった。各大学はそれぞれの創意工夫により特色ある教育課程が編成できるようになった。

② これに関連して、従来の医学進学課程は必ずしも置く必要はなくなり、六年一貫教育の中で各大学が独自のカリキュラムを編成できるようになった。

③ 卒業の要件についても、六年以上在学し一八八単位以上修得することという大枠のみに認められ、従来の授業科目の区分に伴う細かい要件は各大学にまかせられることになった。

以上の主な改正点をふまえて、福岡大学医学部でもカリ

判定できるからであります。

また、平成三年十月日本私立大学連盟は「大学活性化への提言」を発表して、教員人事制度の自己点検を求めています。これによりまずと、現在の人事制度には教育研究の活性化を目的とした人事制度はほとんどなく、一律で馴れ合いの人事制度の結果、自律性の喪失、教育研究の沈滞が現われ、これに対する批判が社会から大学改革圧力となつて大学の自治を危うくしている現状にあります。したがって、教員自らが大学の教育研究の水準を維持するための評価を発想し、自らが教育・研究の自由を確保するために、教学活動に対する経常的評価を行う必要があります。日本私大連盟の平成四年九月における一般教育部会でも、大学による総合的自己評価のほかに

キニラムの抜本的な改正を
る方向で進んでいます。平成
三年および四年の二回の医学
部教授会ワークショップで、
この文部省の大学設置基準の
改正に伴うカリキュラムの間
題がテーマとして取りあげら
れました。さらにカリキュラ
ム検討小委員会が設置され、
新しい福岡大学医学部のカリ
キュラムをどのように編成す
るか検討が始まりました。こ
のなかでは一般教養科目を医学
教育の中でどのように考え位
置づけるか、臨床実習を重視
した臨床医学の教育をどのよ
うに展開していくか、その他
多くの検討すべき問題点があ
ります。医学進学課程を廃止
し、六年一貫の医学教育を考
えていこうという基本的な医
学部の方針を中心に、今後一
二年をめどに新しいカリキ
ュラムの骨組みが出来あがる
ものと期待されます。

新しいカリキュラムについ
て、良いアイデアなどありま
したら、どしどし意見をお客
せただければと思います。

よる教育法評価、教員の諸活
動の定期評価などのアセスメ
ント、改善策の実践などを目
的としたファカルティ・デベ
ロップメント(FD)が求め
られます。地域社会へ何がで
きるかを明確にし、必要度の
高い学科目を増増設し、学外
からの援助を求め、学外に公
開講座を含めた教育プログラ
ムや協力研究の拠点を広げる
ことも重要です。

このような社会的な要請を
受けて、福岡大学においても
平成五年度から自己点検委員
会が発足することになるでし
ょう。そうならば医学部、各
病院においても、それぞれ自
らの自己点検委員を選出し、
自らが選んだそれぞれの重点
点検項目を中心として、それ
ぞれ自らの点検を行うことに
なりましょう。そのような自
己点検は、教職員全体のイン

(二頁中段へ続く)

(自己紹介の続き)

解剖学第二助教授

岡田 則子



疫学の中でも特に補体学における新しいアプローチに挑戦し、研究を展開して参りました。平成四年十月より、また新たな気持ちで、研究に教育に責任感を持って頑張っております。宜しくお願いいたします。

外科学第一助教授

安波 洋一



池田靖洋教授は消化器外科、中でも脾臓外科に造詣が深く、多数の手術例を経験されています。私自身脾臓外科の進歩、更には福岡大学第一外科の発展に寄与できる様努力したいと考えております。皆様の御指導よろしくお願い申し上げます。

整形外科助教授

内藤 正俊



生から整形外科の基礎的および臨床的研究方法を教えて頂いたことが転機となりました。昭和五十八年三月帰国、九州大学第一外科助手、国立小倉病院外科医長を経て平成四年十月一日付で福岡大学第一外科に赴任致しました。皆様の御指導の程に当教室の整形外科の発展に貢献したいと考えております。皆様の御指導よろしくお願い申し上げます。

内科第二講師

半田 耕一



昭和五十七年、福大医学部卒業後第二内科に入学し、二年間の研修後、市立小倉病院で半年間麻酔科を学びました。同五十八年に大学院に進み、大塚教授、菊池教授の指導のもと腫瘍生化学と外科病理学を学び、同六十二年に学位を取得しました。この後、第二外科にて神代助教授の指導のもと一般外科、消化器外科を学び、平成元年より先々代の三戸助教授の御指導のもと三戸外科グループ主任を命ぜられ、平成三年五月より一年間、米国ハーバード大学に留学させて頂きました。カースティン教授、松元教授の指導のもと、レザール外科を学びました。帰国後は、福岡大救命救急センターで救急外科を研修させて頂き、平成四年十月より再び第二外科勤務となりました。今後は、教室がテーマとして神経温存術式に取り組み、外科の発展に少しでも寄与できるよう臨床と研究に努力する所存です。何とぞ、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

分が頑張るしかないと思っただけです。趣味はダイビング、スキー、バイク(子供ができてから取り上げられた)、キャンプ等アウトドア関連ですが、とにかく自然と親しむことが大好きで、耕転機まで買って庭に野菜畑まで作ってしまいました。人の命に最も身近にいる者として、ひとつひとつの命を大切に思う気持ちを忘れないでいようと思っております。こんな私を公私共によろしくお願い申し上げます。

内科第二講師

楠田 三樹子



昭和五十七年、福大医学部卒業後第二内科に入学し、二年間の研修後、市立小倉病院で半年間麻酔科を学びました。同五十八年に大学院に進み、大塚教授、菊池教授の指導のもと腫瘍生化学と外科病理学を学び、同六十二年に学位を取得しました。この後、第二外科にて神代助教授の指導のもと一般外科、消化器外科を学び、平成元年より先々代の三戸助教授の御指導のもと三戸外科グループ主任を命ぜられ、平成三年五月より一年間、米国ハーバード大学に留学させて頂きました。カースティン教授、松元教授の指導のもと、レザール外科を学びました。帰国後は、福岡大救命救急センターで救急外科を研修させて頂き、平成四年十月より再び第二外科勤務となりました。今後は、教室がテーマとして神経温存術式に取り組み、外科の発展に少しでも寄与できるよう臨床と研究に努力する所存です。何とぞ、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

外科第二講師

前川 隆文



私は昭和四十六年九月、福大に医学部が新設される前に着任し、香椎病院に転任を命ぜられたので平成三年九月で満二十年になる。私は大学卒業以来主として胃癌を取り扱ってきたので、当然のことながら福岡大学医学部第二外科の仕事はこれが主体となった。まず術後の遠隔成績は、私が大学を出た頃は五年生存率約二五%とされていた。また七十才以上の患者さんは手術の対象にならなかった。その頃の平均寿命が七十五才、また術後管理の今日ほど進んでいなかった時代であったから、それ以上無理をする合併症が多く、手術はしないほうがよいとされていたのである。それが卒業後四十五年、福

九十才以上の胃癌患者の手術

外科学第二助教授 犬塚 貞光

私は昭和四十六年九月、福大に医学部が新設される前に着任し、香椎病院に転任を命ぜられたので平成三年九月で満二十年になる。私は大学卒業以来主として胃癌を取り扱ってきたので、当然のことながら福岡大学医学部第二外科の仕事はこれが主体となった。まず術後の遠隔成績は、私が大学を出た頃は五年生存率約二五%とされていた。また七十才以上の患者さんは手術の対象にならなかった。その頃の平均寿命が七十五才、また術後管理の今日ほど進んでいなかった時代であったから、それ以上無理をする合併症が多く、手術はしないほうがよいとされていたのである。それが卒業後四十五年、福

大にきてから二十年の今日で、私の出した福大第二外科における五年生存率は七五%となった。また国民の平均寿命が延長した昨今では、九十才以上の超高齢者にも時々遭遇するようになった。そこでこの位の高齢者にまで手術が可能であるかが、問題となる。

私は九十才以上の胃癌患者二例に遭遇し手術をして幸い二例ともうまくいった経験があるので簡単に紹介してみたい。

第一例は九十四才の女性で胃癌による幽門狭窄のためひどい嘔吐があった。食事が通らないのであるから、とりあえず点滴注射をする外はない。所がその患者さんは気の強い人で、看護婦さんが注射に来れば、注射は痛いから嫌だといってクルリと壁の方を向いてしまつたのが常であった。

そんな風でみるみるうちに衰弱がひどくなった。こうなると、九十才であろうとなかると、手術をして食事が通るようになる外はない。

しかし、いくらなんでもやばい九十才の重みは争えず、とうとう家族を呼んで事情を説明することになった。

するとやがてきたのは九十才の弟と八十六才の妹であった。このふたりはボケてしまつて事情を理解することができなかつた。却って本人が「こんなに御飯が食べられず、毎日痛い注射ばかりするくらいなら、いっそのこと手術してもらつたほうがましだ」といふのでした。

幸い他に悪い所はなく、強いだけあって頭ははっきりしていた。手術してみると、癌はかなりの進行していたので、三分の二程度の胃切除とリンパ節廓清を行なった。

手術してみると、癌はかなりの進行していたので、三分の二程度の胃切除とリンパ節廓清を行なった。この症例は術後三週間歩いて退院した。あれからもう六、七年になるがまだ元気で発病前と変わらない日常生活を送っている。もう百才を越えている筈なのに。

次は九十一才の男性である。すでに十四年前に(即ち七十才の時)胃癌の為に手術を受けた。胃癌の再発を繰り返している。癌はやはり幽門部にあり、これにも胃切除とリンパ節廓清を施した。

この患者さんはその後十四年間元気であったが、今度は肉眼的には転移もなかった。一般に高齢者の場合、術後合併症は手術時間の長短と出血量に左右されるといわれているのでなるべく早く手術が終わるよう配慮した。

といつも残胃の全摘である。手術操作は腹腔内の最も深い所で行なわねばならないので、只でさえ時間のかかる手術である。早くしようなどと考えていけば気が散つて却って出血が多くなる。無念無想、かねて身につけた手術手技を忠実に実行し、一つ一つの段階をクリアーしていく外はない。かくて手術は無事に済んだ。

しかし問題は術後にある。肺合併症の予防等というきまり切った術後対策は当然必要であり、これを先手先手と手を打って予防すべきはいうまでもない。

その外に諸君が思われる事故に遭遇することもある。この方面のことは既に精神科にご相談して色々ご指導を頂いている。また回復期に転倒して大腿骨頸部骨折などを

のは心臓も肺もしっかりしている証である。もし心臓等が悪く、気息奄々という状態ならばもうどうでもよいという事になって、生きる気力もないのではないのか。若い人のしたことが気に入らずにガミガミ言つた人は頭がはつきりしている、換言すれば心臓も肺も何でも若々しく正常なのではないだろうか。あまり客観的、学問的な表現ではないが、俗に言う「頑固爺い」や「意地悪婆い」大歓迎である。こう考へてくると、手術がやれないことはなさそうである。家族は前回の手術のことがあるので今度も是非頼むと初めから大乗り気である。本人が「もう年だからこれ以上長生きしようとは思わない」の一点張りであり、あまり無理強いをする訳にもいかず、ていつたが、家族の勧めもあり「歩いて帰れるのなら」といふに手術を承諾してくれた。開腹してみると癌は小さく肉眼的には転移もなかった。一般に高齢者の場合、術後合併症は手術時間の長短と出血量に左右されるといわれているのでなるべく早く手術が終わるよう配慮した。

教室紹介

福岡大学寄生虫学

当教室は昭和四十九年四月に発足しました。現在教員は木船博嗣教授、赤羽啓栄助教授、波部重久助手、岩田久寿郎助手、八尋真一郎助手、下田仁子教育技術員6名で、主に教育および研究に従事しています。

教育については医学部の三年次前期に寄生虫学の講義と実習が行なわれていますが、その他にも夏に行なわれる医学概論演習では毎年多くの希望者が殺到しています。これは寄生虫学の演習がフィールドに出る機会が多く、その点が学生に

人気があるのではないかと考えられます。また、宮崎一郎初代教授以来の伝統から視覚教育に力を入れており、情報センターや医学部本館三階のショールームには標本類を多く展示し、寄生虫学に対する啓蒙を図っています。

研究面では当教室は外に向って開かれた教室であると言えます。教室員の主な出張先を挙げるとアフリカ(ケニア、タンザニア)、中南米(メキシコ、グアテマラ、ペルー)、東南アジア(フィリピン、タイ、マレーシア)、東北アジア(韓国、西アジア(パキスタン、インド)などであり、これらの地域は主に熱帯と言われる地域で、日本では少なくなつたと思われている寄生虫がこれらの地域では医学医療上大きな問題となつていくことがうかがわれます。また日本ではグルメブームやペットブーム等から新たな寄生虫が持ち込まれたり、今までに医学的に重要視されなかつた寄生虫が問題となつたりしてきています。当教室ではこれらの問題に形態学的、生物学的視点から取り組んでいます。

臨床との関連では他科の依頼に応じて寄生虫もしくは寄生虫疾患を疑われる検体のみならず昆虫・ダニをはじめ、種々の有害動物の同定を行なっています。

昭和四十九年に九大工学部化学機械工学科を卒業しました。某商社に就職が内定していたのですが、特発性側癱症に罹患し、就職を断念しました。手術の適応が無いため毎日リハビリテーションを行いつつながら父親の仕事を手伝っていました。自分の疾患について医学書を読んでも理解できず、自分が医者になるしかないと考えました。昭和五十九年に鹿児島大学を卒業し、九大麻酔科学教室に入局しました。二年間の研修中に心臓麻酔に興味を持ち循環器分野を学ぶために荒川教授の門を叩きました。これまで荒川教授より多くのテーマを研究する機会を与えられ、その中の一つで学位を取得することができました。現在、診療の合間に、虚血性心疾患の危

昭和六十二年より福大にお

昭和六十二年より福大にお

昭和六十二年より福大にお

昭和六十二年より福大にお

昭和六十二年より福大にお

昭和六十二年より福大にお

(四頁へ続く)



(三頁より続く)
惹起することもある。しかもこの大腸骨頭骨折は高齢者の場合、えてして命取りになりかねないことは、臨床家の

夙に熟知するところである。私が最近耳にした友人の話によれば、九十才の乳癌の手術後、経過は順調であったので、二週間目に退院することになったが、その退院の当日、便所で転んで大腸骨の頭部骨折をおこし、肺合併症を併発して間もなく死亡したという。高齢者は身動きが出来なくなる

とすべし肺水腫などの致命的な合併症を起すので、骨折はこのような場合最も警戒すべきものの一つである。このような場合、整形外科

幸い手術の方は、縫合不全もなく当然のことであるが術後十日乃至二週間目ごろから、経口摂取をはじめ、歩行訓練器を用いてかなり速く歩けるようになった。

は再発するな、大半は五年以内に再発し、たまにはそれ以後十年目迄に再発することもあるが、さらにそれ以後は別の癌だと考えることになった。従って再発は取り残しのための再発ではなくて、胆

このたび平成四年十二月三十一日付けで福岡大学を退職し、九州大学に移ることにになりました。昭和五十二年十一月に福岡大学に赴任しましたので、振り返ってみますと十

いう印象がありますが、よく考えてみますと、三十代の後半から四十代の総てを過ごしたことになるわけで、医学研究者として一番大切な時期を福岡大学で鍛え育てられた事になります。この間、前半の

三好萬佐行、宮内亮輔同教授の大変なご尽力で幸いにも名古屋市立大学医学部第一解剖学教室の渡 仲三教授の後

張しておりますが第二解剖学教室の山田和順教授と渡 仲三教授の全面的なサポートと馬淵助教をはじめ教職員の方々の協力のおかげで、軟着陸はできています。

と想ったのか、ほとんどの学生はさぼって朝一番の出席者はわずかに六名でした。試験がないと思つて学生諸君はさぼっていると思ひ、試験をやろ七〇〇の学生が集まりました。試験に敏感なのは福岡大学だけの事でなく最近の学生気質だという事がよく解りました。私たちが学生の頃

降りた事は今までほとんどありませんでしたが、名古屋においでの方折には、「そういえば曾爾がここに居た」と思い出して、是非とも名古屋市立大学医学部をお訪ね下さい。お待ちしております。

最後にになりましたが、福岡大学在職中の皆様のご厚情に重ねてお礼を申し上げます。たいへん有り難う御座います。

10 年間

解剖学第二教授 山田 英智



を得て、楽しく過ごしたことを感謝している。

特に、在任中のうち七年間は、米国エール大学との協同研究のために、毎年その数ヶ月を出張することになり、それを許していただいたことを有難く思っている。この研究

と研究にあることはいまでももあるまい。そのための中心は勿論教官であつて、大学の機構はすべて、教官による教育と研究が円滑にうまく行われるように指向すべきものである。種々の規則もそのために

か、特色あるユニークな大学をつくれるかどうか、大学の工夫と先見性が問われている。建物の大きさや、学生の数の多さではなく、教育と研究の充実こそが大学の誇りであり、そのためには、教官

病院長検査部の技師の皆さんと一緒に働いた時間は、私にとって楽しく、新鮮で、大変思い出深い忘れられない出来事になると思ひます。私は病院長経験からだけ眺めるのではなく、少しは化学的に眺めたいと考えて生化学を専攻し

これを高度先進医療として厚生省から認可されましたので、井手口君を中心として福岡大学で益々発展させて行かれることを念じております。

これから職場は変わって検査医学を続けてゆくわけですので、今度は別の領域で新しい検査システムを作つて見たいと思つております。

着任当初は前任者のシステムをなるべく変えないようにと思ひ、医局の位置だけを動かす事が教室全部の改造になる事に気がついたので、後継者が始まってからで、後の祭でした。そのため教室員をはじめ第二解剖の皆様には大変な迷惑をかけてしまいました。

先日、初めてこちらで腎臓の講義をしました。学生諸君は、私の講義には試験がない

十年間は瞬く間に過ぎて、二度目の定年退官の時を迎えることになった。一度目の時は、これで役目は終わったという安堵と、何かを為し遂げた満足感などが入り混じって、感慨深いものがあった。今回は、いよいよ研究室を持った大学での生活を、これで離れることになると思つと、また違った意味での想いがある。

十年前にこの大学に着任した時には、新しい計画と希望をそれなりに持っていた。しかし振り返ってみると、結局為し得たことの少ないのを反省することになった。それでも、多くの方々の助けと協力

十年間は瞬く間に過ぎて、二度目の定年退官の時を迎えることになった。一度目の時は、これで役目は終わったという安堵と、何かを為し遂げた満足感などが入り混じって、感慨深いものがあった。今回は、いよいよ研究室を持った大学での生活を、これで離れることになると思つと、また違った意味での想いがある。

十年前にこの大学に着任した時には、新しい計画と希望をそれなりに持っていた。しかし振り返ってみると、結局為し得たことの少ないのを反省することになった。それでも、多くの方々の助けと協力

十年間は瞬く間に過ぎて、二度目の定年退官の時を迎えることになった。一度目の時は、これで役目は終わったという安堵と、何かを為し遂げた満足感などが入り混じって、感慨深いものがあった。今回は、いよいよ研究室を持った大学での生活を、これで離れることになると思つと、また違った意味での想いがある。

十年前にこの大学に着任した時には、新しい計画と希望をそれなりに持っていた。しかし振り返ってみると、結局為し得たことの少ないのを反省することになった。それでも、多くの方々の助けと協力

十年前にこの大学に着任した時には、新しい計画と希望をそれなりに持っていた。しかし振り返ってみると、結局為し得たことの少ないのを反省することになった。それでも、多くの方々の助けと協力

十年前にこの大学に着任した時には、新しい計画と希望をそれなりに持っていた。しかし振り返ってみると、結局為し得たことの少ないのを反省することになった。それでも、多くの方々の助けと協力

十年前にこの大学に着任した時には、新しい計画と希望をそれなりに持っていた。しかし振り返ってみると、結局為し得たことの少ないのを反省することになった。それでも、多くの方々の助けと協力

十年前にこの大学に着任した時には、新しい計画と希望をそれなりに持っていた。しかし振り返ってみると、結局為し得たことの少ないのを反省することになった。それでも、多くの方々の助けと協力

十年前にこの大学に着任した時には、新しい計画と希望をそれなりに持っていた。しかし振り返ってみると、結局為し得たことの少ないのを反省することになった。それでも、多くの方々の助けと協力

福岡大学医学会総会・例会の報告

日時 平成四年七月二十九日(水) 午後二時より
場所 福岡大学医学部臨床大講堂
第15回総会

議事

- 1、報告事項
- 2、役員改選
- 3、平成三年度会計報告ならびに平成四年度予算(案)
- 4、その他

講演

- 1、座長 竹林 茂夫 教授
「細胞・細胞外マトリックス接着の分子生物学的機構」
病理学第二 坂田 則行 助教授
- 2、座長 奥村 恂 教授
「消化性潰瘍の難治化要因」
内科学第一 岡田 光男 助教授
- 3、座長 奥村 恂 教授
「ERCPと共に二十年」
早期癌の診断をめざして」
外科学第一 池田 靖洋 教授
- 4、座長 菊池 昌弘 教授
「肺気腫症の発症要因」
内科学第二 吉田 稔 教授



大島 孝一

教室紹介

福岡大学産婦人科学

「親心・子心」
(8)

内科第一研修医 藤本 勝洋



声の欄



受賞

361

南灯献花の後、
厳肅な雰囲気につ
つまれて慰霊祭は
進行し、松岡雄治
医学部長は祭詞の
中で、医学の発展
のため欠くことの
できない解剖にご
献体頂いた霊位と
そのご遺族、さら
に、ご協力を頂い
た各種関係機関に

Endoneurography
(分担) Neuroendo-
scopy Vol.1 ③ Mar-
ry Ann Liebert, Inc
③ 一九九一

▽伊崎祐介、大島健司 (眼科)
学) ①眼科 MOOK 4
家族性性渗出性硝子体網膜炎
(分担) ②金原出版③一九
九二④五、六六五円

▽向野利寛、合慶慶太、武志
佳子、大島健司 (眼科学)
①眼科 MOOK 48 家族
性渗出性硝子体網膜炎 (公
担) ②金原出版③一九九一
④五、六六五円

▽林 英之 (眼科学) ①眼科
MOOK 48 家族性性渗
出性硝子体網膜炎 (分担) ②
金原出版③一九九二④五、

Kentaro Tsueda, M. D. ① Professor, Department of Anesthesiology, School of Medicine, University of Louisville, Louisville, Kentucky, U.S.A. ②福岡大学外国人研究員として、来日 ③1992. 11. 4~12. 2 ④麻酔科学教室

今年の干支「癸酉」とは、癸が「よろずメリハリを利かせて事にあたる」、酉が「甕にたまっていたエネルギーが飛び出す」ことだそうです。今年から十八歳人口の減少に伴って、大学はひとつの曲がり角を迎えます。また医学部にとつて平成五年度最大の課題は「大学設置基準の改正、大綱化」です。ここでいう大学設置基準の二本柱は「カリキュラムの改正」および「大学・学部 の自己点検」であることはいうまでもありません。そこで今回はこの二つの大きな問題をまずとりあげる

第十万回福岡大学医学部解剖学教室に御霊位に表はれることと敬意と謝意を表はれることとに『御霊位に表はれることは、日日夜夜を供へ、香を断つことなく、敬意と感謝の念を捧げているものではありませんが、本日、ここに一堂に会し、皆様方の崇高な御意志を今一度思い起こして、今後益々、勉学、研究に励み、人類の幸福と福祉に貢献できますよう努力することを誠意お誓い致します』と新たな誓いを披露されました。

▽大島健司（眼科学）①眼科
救急処置マニュアル（分担）
②診断と治療社③一九九二
④一八、〇〇〇円

▽大島健司（眼科学）①眼科
診療ブракテイス（分担）
②文光堂③一九九二④一
五、四五〇円

▽曾田豊二（耳鼻咽喉科学）
①EEG TOPOGRA
PHY 1989 第八回 一
次元脳電図研究会講演集

① Professor of Medicine, University
② 學術講演会 演題「Receptors for
Lipoprotein as Protectors Against
③ 1992. 10. 20 ④ 内科学第二教室
ham ① Professor of Dept. of Hear

古井 博明(精神医学)
 論文名「対人恐怖症者に
 対する Social Skills
 Training (社会的技能訓
 練)の研究」

池田 昭仁(内科学第二)
論文名「テオフィリンの慢性閉塞性肺疾患の中枢性換気調節機序に及ぼす影響」
占部 嘉男(内科学第二)

tor from the conditioned medium of a subclone of human bladder carcinoma cell line 5637, HTB9."

中国（内科医）②糖尿病研究、特にNIDDM における血中インスリン分泌動態と末梢抵抗性の研究③平成四年八月一日～平成五年七月三十

▽西園昌久（精神医学）①境界例の精神療法（分担）②金剛出版③一九九二④三、〇九〇円

▽満留昭久（小兒科学）①小

九二・五・一④11、00
〇円
▽松崎昭夫(筑紫病院・整形外科) 他編集①OS NOW
NO.6 整形外科基本手術

—

学部または病院を

②目的 ③来訪日

ホルニア大学サ

amatics of sperm
r.” ③1992. 5.

院 副院長 ②山田英
解剖学第二教室
教授 ②山田英

学第二教室
リフォルニア大学
日本解剖学会九
ht and Electron
n of Class II M

平成四年五月以降の海外留学者または海外から本学への

小児神経学の進歩、第21集
②診断と治療社③一九九二

①研修先②目的③期間

▽岡 一成、朝長正道（脳神経外科学）① Instruments for Flexible

平成4年5月以降、本学医学部または病院を訪れた外国
 学者は次のとおり。①所属 ②目的 ③来訪日 ④訪問先

Richard L. Wood ①南カリフォルニア大学 教授 ②解剖学教室を表敬訪問 第48回日本解剖学会九州地方会にて特別講演(10月31日) “Light and Electron Microscopic Studies of the Expression of Class II Major Histocompatible Complex (MHC) Molecules by Lacrimal

ています。

学生のへの論文を書きな

ています。

の成績は例年になく悪いであらうという予想が出ています。決して安くはない学費や生活費を学生諸君に仕送りされている皆さんの御両親の期待を裏切らないように、学生諸君の学習意欲がさらに高まるのを期待すること切であります。また教員のほうも、どのようにしたら学生の勉学への意欲が高まるかについて考えて行きたいというのが、今回のカリキュラムの改正でもあり、大学・医学部の自己点検でもあります。

(T・K)